

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch
公益社団法人 日本建築学会九州支部

MAR.2021

BULLETIN Kyushu BRANCH

九州で活躍する建築家のための情報誌



Contents

- 支部長挨拶 P2
- オピニオン P3-P4
- とりせつ P5-P6
- トピックス P7-P9
- あのころ P10-P11
- よかもん P12-P13
- わさもん P14
- 支部活動報告 P15-P18
- 委員会報告 P19-P20
- 地域会活動報告 P21-P27
- 編集後記 P28



支部長挨拶

うらかな春の日差しが心地よいこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私の春の訪れは、毎年楽しみにしていた柳瀬真澄さん(福岡地域会)主催の花見の会でしたが、今年も建築家仲間と集まる事が叶わず、少し寂しさを感じる今日この頃です。

九州支部長を拝命し丸一年が経ちました。

試行錯誤の一年でしたが予定していた事業も立て続けに中止となり、お役目を果たす事なく2020年度が終わろうとしています。

そんな中でも、本部理事会や支部役員会は予定通り全てリモートで開催し、今後の事業の展開など議論を重ねてきた内容を来年度以降の事業に活かして参りたいと思います。

そして今年度から広報を強化し、ホームページのリニューアルやブルテンの充実を促進して参りました。今後も会員おひとりおひとりの活動や人となりを紹介しながら、九州支部ならではの情報誌に育てて参りますので、会員の皆様の寄稿をお待ちしております。合わせて、ブルテンの新たな企画や忌憚のないご意見も頂ければ幸いです。

3月13日～14日は2日間に渡り、デザインレビュー2021が開催されました。デザインレビューは学生実行委員会が主催し、JIA九州支部がその運営を長年サポートしています。残念ながら対面での開催を断念しリモート開催となりましたが、平瀬有人さん(福岡地域会、佐賀大准教授)の司会により、本戦オンライン出展62作品の学生(予選は258作品)と5名のクリティクの建築家によって、対面に劣らない白熱した議論が交わされました。

また昨年度からスタートした



デザインレビュー2021(会場:福岡大学)



松山 将勝(九州支部長)

デザインレビュー高校生レポーター事業も同時開催し、九州各地から25名の高校生が参加してくれました。大学生と建築家が繰り広げる議論の場はとても刺激的な体験であったと思います。九州支部の実行委員をはじめ、ご支援・ご協賛を頂きました皆様はこの場を借りて深く感謝申し上げます。

九州支部では小学校への出前授業も行っています。未来の建築家を導く活動も私たち現役の建築家の使命だと考えます。こうした活動が各地域会で活発化する事を期待しています。

今年度の締めくくりとして、各地域会の総会が順次開催される予定です。先日は熊本地域会の総会が開催され、私もオブザーバーで参加させて頂きました。総会后ささやかな懇親会もあり、久しぶりに地域会の皆さんと交流ができ、改めて対面の尊さを感じながら帰路につきました。

来年度はできる限り足を運んで参りますので、その際はお気軽にお声かけ頂ければ幸いです。

最後に今年の九州支部通常総会は、5月22日(土)に開催致します。

今の所、対面とリモートのハイブリッド方式での開催準備を進めておりますが、状況を見据えながら判断したいと思いますので、会員の皆様には改めてご案内申し上げます。

総会に先立って、総会資料をお届け致しますので、議案の書面表決や委任状のご返送を頂きますようお願い申し上げます。



執行部会議(定期的開催)

プロポーザル

古森 弘一 (北福岡地域会)

2015年は私にとって激動の一年でした。2014年末に宮崎県の油津商店街のコンペに参加しましたが、一次審査も通らず、手応えのない状況で審査終了。その後、審査員に弊社の案の足らなかった点を伺ったところ、帰ってきた言葉は「二段階足りない」とのことでした。箸にも棒にもかからない、とのことでした。そこで、前年の悔しさを抱えながら年明け仕事はじめに掲げた2015年の目標は「いちばんになる」でした。すぐに、福智町図書館のプロポーザルが公表され、スタッフ一丸となって望み、何とか一次審査通過。しかし、二次審査は勝手に分からず惨敗。それを終えると司法書士会館のプロポーザルが公表され、こちらも一次通過。今度こそはと望んだ二次では、惜しくも次点。そうこうしていると熊本県から防災センター（ヘリコプター格納庫）の指名を受けました。今度は最初から5社なので何とかなるのでは、とチャレンジしましたが、こちらも手応えもなく惨敗。年明けからずっと一次、二次と繰り返していたように記憶しています。そして弁護士会館のプロポーザルが公表されました。プロポーザルで悪戦苦闘している間も片方で様々なプロジェクトは進行しています。しかし、プロポーザル提出間近になると全員がかかりつきりになり、どうしても遅れていきます。クライアントにお願いに行き、何とか設計期間を延長して貰い乗り切っていました。片方で出費もかなりなものになってきました。もうその頃は、プロポーザルをやる意味すらわからなくなっていました。しかし、プロポーザルをサポートしてくれていたエンジニアのアラップの方から「ここでやめてしまう人は沢山います」とか「きっと近いうち取れますよ」とか継続的なエールと応援があり何とか乗り越えていました。もう疲れ果て、「弁護士会館で最後にしよ



う」と副所長の橋迫とこっそり話していましたがの思い出します。そして、このプロポーザルで最優秀の連絡ももらったのは年末で、ぎりぎり「いちばんになる」を達成することができました。その期間に学んだことを紹介させていただきます。

エントリーを考える

弊社はcompe-propo.comの会員になっていて、担当スタッフがプロポ情報を定期的に確認しています。多くは条件が合わずエントリーできませんし、出せるものでも全て出しているわけではありません。中には明らかに形だけのプロポーザルもあり、審査員の構成などを見ると何となくわかるようになってきました。あとは、選定された場合の設計料が随分と少ないものは、エントリーしないようにしています。

4つの脳みそで考える

沢山トライしてわかったのは短期間に資料を仕上げるのは優秀な一つの脳みそより、コンセプト、プラン、資料、模型及びCGをそれぞれ分担して考える脳みその数が重要です。しかし、これが最もハードル高い条件だと思います。なかなか、そのようなチームが出来ないのが実情だと思います。また、弊社では毎日ランチは一緒に食べるようにしています。弁護士会館のプロポーザルの後にスタッフから聞いたところ勝因は、その沢山の時間の共有の賜物だそうです。

2秒でわかる良さ

「天才でなければモデルを持て」という大江健三郎の言葉があります。最近プロポーザルの提案資料も公開されることが多いので、プロポーザルに強い事務所の

シートはアーカイブしておいて、プロポーザルが始まると事務所の共有の机の上に広げておきます。パッとみたときに、その資料と遜色のない密度のものを作るのは、エントリーの最低条件と考えています。また、よく審査員をする建築家から聞いたところによると、良い提案は2秒でわかるそうです。プレゼンテーションの資料を作るときはそこを重視しています。

しっかり反省する

現在でも決して勝率が良いわけではありません。相変わらず沢山負けてしまいます。そして、もうやめようかな？と思った頃に建築の神様がひとつ授けてくれます。沢山負けてわかったことが、一定量負けることは必須です。そして、負けた後にはしっかりと何故負けたかの会議をするようにしています。可能であれば、発注者や審査員に聞きにいった、敗因を掴みます。どこかに必ず敗因があるので、いやな作業ですが頑張って直視するようにしています。

私自身北九州で磯崎建築に囲まれて育ちました。それは恵まれた環境でもあるのですが一方で、ある程度の規模になると地元の設計事務所では出来ないのか？ということが学生の頃から疑問でした。その後、発注の仕組みがわかるようになるとこれは発注側の問題ではなく設計側の力不足だと認識するようになりました。

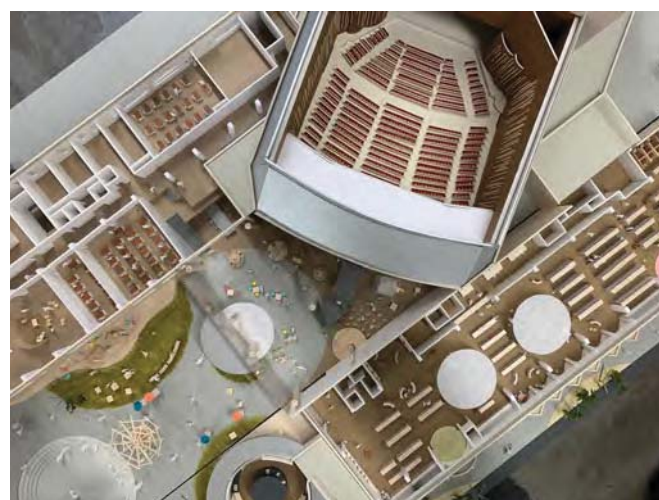
これから九州でも戦後に建てられた多くの庁舎や図書館が建て替えの時期に差し掛かると聞いています。出来ることなら大規模なプロジェクトの半分くらいは九州の事務所が設計する方が、より多様できめ細かな良い環境を作ることができると確信しています。

皆さんと協力して、競って、設計における地産地消を実現したいと願っています。



弁護士会館

2015年にJIAの協力で開催されたプロポーザルを経て2019年竣工。工事中もJIAがサポートを続けることにより弁護士会会員1300人の意見集約を実現



那珂川市ミリカローデンリニューアル

プロポーザルを経て2021年着工、2025年竣工予定。JIA福岡会主催の「まちと建築展」4月3日～4月12日（博多南駅前ビル2階）にて着工模型を展示。

「建築確認申請手続についての提案」

建築確認申請手続が姉齒事件後大幅に見直され、建築士制度に構造・設備の一級の制度も新たに加わりました。確認審査機関も民間機関でも行えるようになり、建築士の定期講習も3年毎に一度と義務化されました。ただ、この定期講習は設計実務に関わっている建築士のみに必須となっています。確認申請は新たに構造適判が加わり、構造はダブルチェックが行われるようになりました。最近では省エネ適判も加わりました。特定行政庁が行う建築の場合の計画通知の場合も、構造適判チェックが必要となりました。最近の確認申請の提出図書は、今だに紙ベースで行っている現状です。構造計算書の提出物は膨大な印刷物となっています。又、申請中訂正・変更は、その都度印刷物を差し替えるという作業は昔も今も変わりませんが、最近審査内容も増えて、印刷物の量も格段に増えていると思われま

審査側・提出者側の手間を考えると、今はパソコン社会であり、パソコンの画面上のやりとりで審査を行って、必要なら最終的なものだけを建築主が保管できるよう印刷物とする方が合理的ではないかと考えます。例えば建築主の保管もデータ化したもので行うことも考えていいと思います。BIM化が進むと、近い将来画面上のやりとりで行われるようになると思います。基本的に発注者の代理で行っている確認作業が審査機関のために作業を行うかのように感じられます。

2019年（平成31年）にJIA、士会、建築事務所協会の幹事の方々と「建築確認申請手続についての提案」を話合ってもらった時の資料を添付いたします。



和田 正樹（福岡地域会）

資料 1

建築確認申請手続についての提案（提案の骨子）

姉齒事件後、建築基準法・建築士の改正が行われ、確認申請手続の大幅な見直しが行われました。審査期間が延長され構造の適判機関による構造のダブルチェックがされるようになりました。最近では、地球環境を守るための省エネの適判ができ、建築の省エネに対する審査も行われるようになりました。設計事務所の業務の中で、本来設計に十分な時間を費やして若手設計者が育っていくべきところを、最近の確認申請手続業務をみると姉齒事件後の建築確認申請手続が混乱した時期よりはスムーズになったとはいえ、最近の省エネ適判の審査のやり取りなどは多大な時間を費やしています。

大組織事務所は別として、数人・数十人規模の設計事務所では確認申請業務に携わる担当者は、これから設計者として一人前に育っていく若手の所員です。見識を広め、設計の技術力を高める大事な時期に、確認業務で“重箱の隅をつつく”ような作業を審査機関と行っているのが現状です。

そこで、建築確認業務の審査を建築事務所協会、建築士会、建築家協会が中心となって内部で申請の審査の一部もしくは主要な部分（例えば構造適判、省エネ適判等）を行って審査のスピード化を図れるようにできないか考えます。もちろんJSCAにも加わっていただくことも考えます。

上記建築設計3団体は、近い将来若手設計者が減少し、会の存続のための会費の問題等基本的な問題に直面しています。建築設計3団体会員が行う設計の確認審査業務については、内部で審査の一部もしくは主要部分を行って、会員以外の建築確認申請業務よりスピード化が

図れば会員の入会も増加し、会の社会的地位は高まると考えます。

また、現在建築設計3団体の会員または会員事務所は日本の主要な設計者及び設計事務所の中核の方々と考えられます。つい最近、建築士の試験制度の見直しが行われました。

これは建築設計3団体からの国への働きかけによって実現したものです。若手設計者を増やすためでもあります。具体的に、建築確認申請業務の審査の一部もしくは主要部分をどのように行うかは、そのための委員会を立ち上げて、検討が必要となります。

提案の目的は建築設計に携わる者の質の向上、若手設計者の確保等、また、建築設計3団体の会員確保および社会的な地位の向上です。

資料2

建築確認申請手続についての提案（具体的な提案）

建築の設計者は広く見識を持ち、社会に貢献する立場にあります。従って、法律を遵守して設計を進めるのは当然であります。

現在、建築の確認申請手続は審査側との協議を繰り返して、手続を進めています。本来は設計者が全責任を持ち、審査側は確認をすることでよいはずですが。

姉齒事件後、確認通知になった建築で審査側の責任が問題になったことがありますが、これは本来設計者の責任であり、審査側の責任を問題にすることは全くナンセンスだと考えます。

建築設計3団体で行う建築確認申請手続は、設計者の責任に任せる制度をつくり、建築設計3団体内部でしっかりとした審査体制をつくり、審査の手続の省力化・時間短縮を図りたいと思います。

建築確認申請の手続上の具体的な提案として

- ・現在、審査機関とは訂正がある毎に印刷物を持参して審査業務を行っています。建築確認の提出物の作業はパソコン上で行われているので建築設計3団体の内部での審査はすべてメールでやりとりを行い、最終の時点で設計図書を印刷する。
- ・設計図面は管理建築士又は、プロジェクトの総括責任者が十分な内容の確認を行った上で提出する。担当者任せのままの設計図書は提出しない。
- ・設計者に確認申請図書の責任を今まで以上に持たせる。

昨年からの新型コロナ騒動のため、建築設計界の集まりもほとんどなく、BIMの普及のスピードにも影響があると思います。

アフターコロナとなり、BIM普及は進み、電子的な確認申請になることが予想されます。

菅内閣になり、役所のデジタル化を進めようとしています。確認申請業務も、その流れに沿ってペーパーレス化を進めることを検討すべきだと考えます。

建築基準法・土法が改正されるたびに、設計者が行う確認申請の作業量は間違いなく増加すると思われます。確認作業手続は、これまでは行政側が決めたもの沿って行っていましたが、建築士制度の変更の時と同様に、建築設計3団体側から行政側に働きかけないと省力化には決して進まないと思います。

今回確認申請についてがテーマとなっていますが、このような動きがきっかけとなって建築設計3団体が将来一つにまとまって国にはたらきかけ、社会のために役に立つ組織となることが目的だと考えています。そのために、我々建築設計3団体の中核にいる皆様、早急にそのきっかけを作るべきだと考えます。

坂のまち長崎

長崎市ではすぐれた都市景観の形成に寄与している物件等に2年に1度贈られる長崎市都市景観賞があり、JIA長崎地域会も選考委員のメンバーとして活動を行っております。

長崎市都市景観賞は、長崎らしいまちづくりを進めるため。長崎の歴史的背景と地理的特色を生かし、周囲の町並みや雰囲気に調和した建築物、優れた都市景観の形成に寄与していると認められるものを表彰することにより、市民の都市景観に対する関心を高め、より一層快適な美しい街並みを守り育てていくことを目的として、1987年に創設されました。

2019年度は21回目の開催となり、市政130周年という節目でもあることから記念事業として「坂みち景観13選」の選定を行いました。

長崎市は古くから「坂のまち」として有名です、また石畳等の風情ある坂とその周囲の景観が一体となった長崎らしい坂みち景観は、地域の方々に親しみがありながらも多くの市民や観光客に知られていない場所が多くあります。

今回の選定を機に坂みち景観を長崎の魅力として発信していくことにJIA長崎地域会としても参加しています。

2019年度第21回長崎都市景観賞の表彰はコロナの影響により延期されましたが2020年10月に無事表彰式が行われました。

長崎市都市景観賞にはいくつかの部門がありますが今回は「坂みち景観13選」を主体に紹介します。



田中 健一郎（長崎地域会）

●長崎市都市景観賞

大きな建築部門 Nagasaki job Port 設計 Eureka

歴史のある部門 若宮稲荷神社 設計 不明

公共施設部門 出島表門橋・出島表門橋公園

意匠構造デザイン Ney&Partners

テーマ部門 HafH Nagasaki SAI

設計 (株)百枝優建築設計事務所

テーマ部門 風頭公園石切り場

諏訪神社の参道にある階段を長坂と呼ぶように長崎では階段のことも「坂」と呼んでいます。

今回は市政130年を記念して「坂みち景観13選」が追加され「坂のまち長崎」らしい風情ある景観が選ばれました、長崎を訪れた際には長崎市都市景観賞の受賞作品や地域で親しまれている「坂みち」を是非歩いてみてください。

「坂」の風情の虜になるかもしれません。

詳細は下記サイトでご覧いただけます。

長崎市都市景観賞 公式ウェブサイト

<https://nagasaki-keikansho.jp/>

● 坂みち景観 13選



オランダ坂（東山手町）／東山手・南山手地区景観形成重点地区

1858年（安政5）の日米修好通商条約で日本が開国して長崎が開港場の一つとなった時、大浦の商業理が行われ、背後の東山手に最初の坂みちが造られた。借地人会の記録に「丘沿いの道に容易に上がれる2本の坂道を建設するようにする。一つは教会への道で上手に舗装すること」とあるので、大浦海岸通りから山手への坂みちを2本造ってみちを循環させたのであろう。すなわち、活水下の坂と誠孝院下の2本の坂みちである。活水学院への坂みちはプロシヤ領事館を契機に造られたのであろう。このように商業地と居住地をつなげたり、教会に礼拝に行く、車で行ける坂みちを初めて見た長崎人は、従来型の石段の上り坂に対して、新しくオランダ坂と呼んだのである。商業地と住居地を分けたり、歩道と車道の構成、丘の住まいの景観に配慮する等の坂みちによる町づくりで、概して画一的な造成でなく、斜面や丘を有効に使い、港の景観や、建物や崖の高さや構成にまで注意が払われた。



祈念坂（南山手町）／東山手・南山手地区景観形成重点地区

大浦天主堂の東脇に沿う細長く急な石畳坂。かつての南山手居留地のはずれの一角で、入口辺りは、教会、寺院、神社が隣り合う珍しいスペースである。中でも妙行寺には最初の英国領事館が置かれた。上り始めの場所は初めての人は迷うが、道が分かると、人通りのない静かな雰囲気、進むにつれて、いかにも長崎らしい坂の魅力が伝わってくる。大きな天主堂側壁の白壁やステンドグラスの細部まで見え、足元の石畳や石溝、石標はそのまま残り、S字金具の付いたレンガ塀を見やりながら振り向くと、天主堂の尖塔や屋根の建物の遠近感をはるか彼方の町や港の景観とマッチして絵のような景色である。途中の廃墟は平成初めまで夫妻が住まわれていた住宅の跡。上段にたどり着くと、石造洋館のレストハウス、港の見える公園が整備されている。谷向こうは、山にひしめきあうような長崎の住居群の向こうに、東山手の洋館、さらに市街地の大きな港景観が望める。



グラバー坂（南山手町）／東山手・南山手地区景観形成重点地区

グラバー坂は、南山手1番乙の大浦天主堂、同3番のグラバー邸の建物を中心に、幕末明治の長崎近代化に大きな影響を与えた人たちが往来した坂みちで、洋館や人物にまつわる横々な歴史が刻まれてきた。土産物店がならぶ大浦天主堂前の上り坂は、振り返ると今も旧香港上海銀行長崎支店の建築越しに港景観が望める。1974年（昭和49）にグラバー園が開園、天主堂の高さに対するホテルの高さが景観を損なう恐れがあるとして問題になった。洋館が失われて洋館保存運動がはじまり、これは旧香港上海銀行長崎支店の現地保存となり実を結び、坂の途中のウォーカー邸も移築保存され町並み保存センターとなる。そして、東山手・南山手一帯は伝統的建造物群保存地区指定され、地区の洋館が保存整備された。グラバー邸から港が見える景観は、周辺建物の高さ整備に役立てられた。現在では世界遺産関連でグラバー邸が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産、大浦天主堂が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産になっている。



ドンドン坂（南山手町）／東山手・南山手地区景観形成重点地区

横長に大きい赤煉瓦のマリア園のすぐ隣りにある、南山手奥の16番・17番と21番・22番の間を抜ける急な坂みちで、文字通り窓を開けば港が見える洋館が立ち並ぶ。南山手の洋館の屋横越しに長崎港が横たわり、坂みちは港に直交するので、坂みちの眺めは下るにつれ港が徐々にアップで大きく迫る。対岸の造船所、カンチレバークレーン、行き交う船舶の音も聞こえ、稲佐山、女神大橋まで見渡せる。二人並んで歩けるほどの道幅なのも良く、ドンドン景色が展開するからか、あるいは坂みちに降る雨水がドンドン流れても大丈夫なのか、坂の名の由来はよくわからないが面白い。確かに、降った雨水が早く溝に吐ける横、敷石が斜めに目地切りされ、上段は三角溝、下段は平溝で早く多量に流し、隙間なく天川しついで丁寧に固めてあるので歩きやすい。異国情緒の風情が変わっていく中、居留地時代の石畳の坂みちがしっかりとした姿で残されているのは貴重である。



旧スチール記念学校裏にある坂（南山手町）※／東山手・南山手地区景観形成重点地区

南山手奥の榎葉邸脇から上りグラバー園第二ゲートに至る、ゆるやかに車で蛇行できる上り坂である。現在はグラバー園の外郭道路の一部で、旧スチール記念学校の建物裏側が楽しめる。デンマーク国立博物館蔵の居留地区で確かめると、この坂は現在のオルト邸の建つ南山手14番地所に相当し、坂みちは下の主要道から上段の邸へまっすぐ上り敷地周りを上って入るオルト邸へのアプローチ路であったことがわかる。グラバー園創設に際し旧スチール記念学校の移設事業で、道が切り離されたらしい。元の路面は舗装されて残っていないが、残されたルートをとると、大樹が生い茂り、木陰みちもある。道すがら、木立の間に港と対岸の造船所の景色が見渡せる快適な景観が広がり、初期居留地の茶取りで活躍した貿易商人オルトのマイホームへの道のり感覚が味わえる。ここは普段でも人影が少ない、当時に偲んで静かに散策を楽しんだり、また南山手の反対側に出る散策路として適している。



幣振坂（寺町ほか）／中島川・寺町地区景観形成重点地区

幣振坂には、男風頭山に上る皓台寺と大音寺の間、延命寺と長照寺の間、女風頭山に上る東本願寺横の坂が同名で呼ばれる。「長崎名勝図絵」によると、延命寺と長照寺の間の坂を幣振坂とし、長崎氏が幣を振って士卒を指揮した所、あるいは1638年（寛永15）に諏訪社の大鳥居建立の際、郷民2千人が石を曳いたが重くて動かないので、一人が幣を振って鼓舞したところ、ようやく動かすことができた。幣を振ったのがヘイフリと訛ったという。江戸初期の新町建設のため神社や石橋などの石を切り出した姿を思い浮かべさせる。選定した皓台寺と大音寺の間の坂みちは、皓台寺の古びた石塀と寺院の壁、大音寺の墓地が両側に長く続き心地良い。しだいに樹々が茂り急坂となるが、振りかえると、寺院建築の大屋根の構成がいくつも跳められる。山頂までは石段と墓地が延々と続き、山頂近くには安山岩の石切り場が今も残されている。



諏訪の杜を抜ける坂（上西山町ほか）

日本銀行長崎支店横から市立長崎中学校まで上がる途中、長崎公園や諏訪神社の神域を何度もS字に蛇行する坂みちで、ここには樹齢700～800年という大クス群が自生する。諏訪の杜の斜面をゆく車道の真中に、大きなクスのご神木がいくつも林立しているのが特徴的で、車の運転は注意が必要だが、坂みちを上り下りする時に与える印象の度合いは相当に大きい。この坂は六角道ともいわれるが、その由来は、六角をした東屋があるからとか、道が六つに折れ曲るからとかあるが、よくわからない。江戸期は安禅寺があったが明治の廃仏毀釈で廃寺になり、その大半が1874年（明治7）に長崎最初の公園（諏訪公園）となった。坂の途中には図書館、博物館や体育館が集まり、明治期に教育文化的な核が形成されたところである。中央には東照宮神社が再興され古くが偲ばれる。六角道は、江戸期から近代初頭の長崎が繁栄著しい頃の寺院や教育文化の場に触れながら、大クス群の樹叢から市内や港の景色が楽しめる。



長坂（上西山町）

諏訪神社参道を行くと社殿の前に踊り馬場と長坂、長坂正面に舞台の石畳が敷かれている。長坂は73段もの長い石段で、幅は6メートルほどで両側に石塀が立つ。長崎くんちの時には、石段は奉納踊りの見物席として無料開放され、幅30センチほどの踏面にキチキチに坐り合う。長坂の両側には棧敷が何段にも組み立てられる。石峰融思の「長崎古今集覧名勝図絵」でも、この舞台設定で、唐人やオランダ人らの白テント屋根が階段状に立ち上がっている。奉納踊りの掛け声も中央の長坂から秋空にこだましたのだろう。くんちの晴れ髷台の前後、おくだり（渡御）、おのぼり（還御）の時にはこの石段を飛ばすように下り上りするのである。普段は静々と上り下りし、眼下に広がる町家、山並みの景観を楽しんで神社をあとにする。このように、暫段はそれぞれの行事のお参りだが、祭りの奉納踊りの時になると長坂を軸にして舞台がつくられ人々と町が一体になる。長坂は長崎の伝統的な坂みち文化を代表する場所である。



天満坂（万才町ほか）

天満坂は丘上の万才町と下の賑町を結ぶ石段の坂みちで、ビジネス街の市民らが行き来する馴染み深い通りである。かなりの高低差にかかわらず大変上り下りし易いのに驚く。路面には積年の踏み跡のクボミがあるが、ていねいに造られてびくともしていない。しかも両側の石垣積みは反りの大きい特徴的な造形がみられ、長崎の坂みちの中で最も古いものに属する。長崎名勝図絵によると、大音寺坂の名で、1616年（元和2）に本博多町の南蛮寺跡地（ミゼリコルディア）を幕府が伝言に賜り大音寺を創立した時の遺址とあるので、戦国時代の遺構として貴重である。ミゼリコルディアは日本人キリシタン・ジュスティエノと妻による慈善事業本部の慈悲屋で、禁教令の下で最後まで残された。1638年（寛永15）大音寺は今の鍛冶屋町に移転するが、跡地には坂上天満宮が建てられ原爆被災して下に移るまで長く存続した。1701年（元禄13）に深堀義士騒動があったりと、ここは幾多の歴史を刻む。



梅園身代り天満宮に上る坂（丸山町）

丸山町の石畳坂に建つ格子戸の丸山番舎の建物脇から入ると、石畳敷きのやや上り坂となり、花月の長い裏塀や風情のある意匠の建物が連続する。みちの階段上に梅園身代り天満宮、さらに上段にまわり込むと中の茶屋がある。幕末期の長崎ぶらぶら節で知られた「遊びに行くなら花月か中の茶屋梅園裏門たいて丸山ぶらぶら」の一節はこの坂みちのことだろう。丸山遊郭を闊歩した人たちの情景を感じさせる。中の茶屋とは、梅園社の裏側の寄町筑屋が営んだ有名な茶屋である。千代の宿、千歳窓（せんざいわ）は別名で、文人墨客が好んで通い、長崎奉行の丸山巡見の際には休憩所にあてられた。建物は1971年（昭和46）に類焼したが旧態に復元して茶屋が付され、庭は江戸中期の代表的名園の一つである。地区は迷路状で、中の茶屋への坂みちは、ほかか寄町、中小島、電車通り側からもアクセスできる。正覚寺の墓地沿いに小路の階段を上って行く坂みちも風情があってよい。



稲佐悟真寺国際墓地にある坂（曙町）

悟真寺は1598年（慶長3）に開基された長崎に現存する最古の寺院で、1602年（慶長7）に唐人墓が最初につくられた。稲佐山のふもとの悟真寺境内に設けられた国際墓地の入口には古い祭場石壇が据えられ、蓮池を石橋で渡り墓域に入る。墓域は墓壇ごとにレンガ塀で区画され、赤いレンガ塀で区画された階段状の坂みちが中を貫いて、樹林の中を段々に立ち上がる横が美しい。このレンガ塀の階段状の坂みちを登ると港町の風景が広がる。道の所々に入口門があり、墓域はそれぞれ緑の地の中に石棺、石碑が並び樹々が空に茂り、ロシア正教会の小さな礼拝堂も建つ。異人墓はオランダ、ロシア、中国の三国に区分され、中国人墓地の一隅にはアメリカ、フランス、プロシヤ、ユダヤ、インド人の墓も入り混じる。代々の住職により守られた民間の国際墓地で、日中親善で墓地清掃が行われている。古くからの長崎の国際性を示す得たい坂みちである。



ピントコ坂（上小島2丁目ほか）

旧茂木街道にあたる上小島の墓域から県立南高正門下まで700メートルほどの長い坂みちのこと。墓地域が小高い丘に点在し、沿道に祠、碑が宅地と隣り合い、そこを縫うように車が一台通れるくらいの道幅で丘に連坦する家々をつなぐ様子は、坂の町長崎を彷彿とさせる。このまん中辺りに傾城塚（けいせいづか）がある。傾城とは遊女のことである。1690年（元禄3）年、唐人・何曼徳（か・びんとく）が処刑された亡骸を遊女阿登倭（おとわ）が故郷の見えるこの地に埋葬し自害したという。この名前の曼徳（びんとく）が訛ったととも、「びんとく」とは石ころのデコボコ坂の意など諸説ある。またライオンの塔という1712年（正徳2）に大流行した天然痘の犠牲者の供養塔もある。お盆の時になると坂の両脇のお墓より矢火矢の音や線香の香りがただよう情景が広がる。坂を下りる時は、沿道の石垣、遺物や家並みがうねり、近くの墓石と遠くの市街地ビルが重なり、両側の緑の山並みが市街地を囲む、遠近感のある立体的な景色は見応えがある。



サントス通り（上野町ほか）／平和公園地区景観形成重点地区

サントス通りは、浦上川の大橋交差点から入り、坂みちは上ったり下ったりして如己堂や中国領事館を経て、しだいに下りながら浦上天堂にいたる。一帯は浦上川流域にあって、平和公園の丘をはじめとした幾筋もの山裾を道を道が横切り、起伏に富んだ地形を形成する。このため沿道両側に植えられた長崎の木のナンキンハゼは、刻々と樹々の枝ぶりが重なり上下し、歩いたり車窓からの景観が印象的で、秋には紅葉が美しい。とりわけ、浦上天堂への下り坂は、石垣の積層や緑の植え込み、双塔やバラ窓のある天堂建築の大きい景観を見せる。サントス通りは、ポルトガルによって開かれた港町のブラジルのサントス市が長崎の姉妹都市であることにちなんで1977年（昭和52）に名付けられた。この坂みちはまた、戦後の長崎国際文化都市建設により原爆後に復興されたみちの一つで、浦上川の大橋やその支流が天堂堂下を流れる橋をつなぎ、歩行者に親しみやすい国際的な坂みちである。

2005年 JIA九州支部大会&建築塾の思い出

今振り返ると15年前のことではあるが忘れることのできない思い出となりました。

当時、宮崎会の会長を務めていましたが、丁度その時に舞い込んだ九州支部大会と建築塾の開催でした。宮崎開催の順番と言うことで初めての体験が始まりました。

少ない会員で実行委員会を何回となく開き、場所はどこにしようか？会場は？内容は？役割は？予算は？実行委員長は？など悪戦苦闘でした。

宮崎らしいところで開催しよう！都会でなく自然を満喫できる場所というところから照葉樹林で知られている綾町に決定しました。

会場は支部大会を綾川荘。建築塾は馬小屋を改造した賢治の学校。建築塾の会場においてはまさかこんなところで良いのだろうか？と思っただけの古ぼけた建物で、且つ全く人気の少ない自然に囲まれた会場となった。後は雰囲気づくりとおもてなしの心で！この場所で良かったと思える支部大会と建築塾にしようと意気込む！

会場が決まると現地に赴き会場の下見を行い、レイアウトの計画や懇親会の内容検討など行った。今、思うと2週続けての日程がよくできたなあ～と思います。

スケジュールとしては

建築塾は10月1日（土）、2日（日）と10月8日（土）、9日（日）。支部大会は10月9日（土）となった。

大会テーマは“樹” 自然とまちの共生



河野 秀親（宮崎地域会）

コーディネーター 鮎川 透（環・設計工房一級建築士事務所）

パネラー 国広ジョージ（国士舘大学教授）岡島直方（南九州大学）林田義伸（都城国立高等専門学校）高崎正治（京都芸術大学教授）郷田美紀子（薬剤師兼百姓、薬膳料理オーナー）

建築塾の講師は国広ジョージ（国士舘大学工学部教授）武田光史（武田光史建築デザイン事務所 主宰）金箱温春（金箱構造設計事務所 主宰）古川 保（すまい塾古川設計室 主宰）三谷 徹（千葉大学庭園デザイン学助教授）

現在行われている支部大会や建築塾と比較すると規模、内容共に間違いなく規模が大きく充実していたように思えます。



支部大会後の楽しみは会員やゲスト、来賓を交えての懇親会です。当初から会場の関係で手作りのおもてなしの料理と地元の焼酎をメインにした懇親会にしようと計画しました。

茅葺の古民家でいろいろを囲んでの和やかな中でも熱気ムンムンだったことが心に残っています。特に宮崎は焼酎文化の県ですので各地区より持ち寄った、自慢のうまい焼酎を飲みながらの懇親会は大いに盛り上がったことを思い出します。

一方、建築塾の方は講師陣に恵まれて幅広い中身の濃い充実した塾となりました。塾生は九州管内から10名の

参加がありましたが中でも地元宮崎から3名が参加してほっとしたところでした。宮崎県は建築の大学がないので建築を勉強できる土壌が少ないのです。建築塾はその意味では貴重な体験ができる場であったと思っています。塾生の卒業生はその後幅広い視野に立って活躍しているものと想像します。



塾の会場が人気のない自然環境に恵まれた場所で開催されたことや食事の準備などは会員が手作りで調理したことで塾生との交流や絆も深まったのではと思っています。大変な苦労や困難はありましたが終わってからの達成感や充実感は全ての会員が思ったのではないのでしょうか。



当日、もう一つの忘れることのできない出来事がありました。それは建築塾の前段のユニットに参加できなかったことです。当初から分かっていたことでしたがスケジュールが結婚式と重なっていたことです。その結婚式が日本ではなくシンガポールだったことで更に心配が増幅しました。会長の私が出席できないことで急遽その代役を他の会員に頼み開催するという忘れることのできない思い出であり、会員の皆さんに大変な迷惑を掛けたことに申し訳なかったなあと感じております。海外から

電話で連絡を取りながら心配したことは今でも心の中に深く残っています。支部大会&建築塾は会員の皆さんや多くの関係者の協力のもと成功しましたものと思います。

改めてこの場をお借りしてありがとうございました。

感謝！！

またあのことろのメンバーにお会いしたいですね！



支部大会会場



支部大会会場



建築塾交流会

ヨーロッパ音楽行脚

私がヨーロッパに建築行脚の旅に出たのは1972年、春にはまだ肌寒い頃だった。28歳、大学で学んだ近代建築をこの目で体感したい。当時まだ日本円は弱く、1ドルが360円もした。未だベルリンには壁があった。横浜から出港、ナホトカでシベリア鉄道に乗り換え、ハバロフスクへ。そこからモスクワへ飛んだ。まだ冬のナホトカはくすんだ灰色の空の下、ラスコリニコフが徘徊しているような寒々しさだった。モスクワからカイロまで欧州を巡る80日間の建築行脚をスタートさせた。グロピウス、コルビジェ、アアルト、ペーレンス、シレン、レイマピエトラ、オルブリヒ、スターリング、シャロウン、ワグナー、ロース、ホフマン、数え上げればきりが無いがひたすら近代建築を観て歩いた。

ユースホテルやYMCAに泊まり、市場で食料を求める超低コストの旅だったが音楽会だけは贅沢した。アムステルダムコンサートへボウ、ロンドンフィル、ベルリンフィル、ウィーンフィル等一流オーケストラを聴いた。特にウィーンではムジークフェラインでのウィーンフィル、レナードバーンスタイン指揮のマーラーの4番は忘れることが出来ない。苦勞して観た近代建築だったが違和感と失望を感じたのも事実だった。思想としての近代建築は素晴らしいものがあるがそこから生まれた作品には必ずしも共感できない処があった。それから私の興味は日本文化、和風建築、数寄屋へと大きく転換して行く事になったが当時、木造は建築界では視野の外にあり、近代和風建築など一部の歴史学者の研究対象でしかなかった



永田 諄和（福岡地域会）

た。現在の主流である大断面集成材、トラス造など技術の進歩には目覚ましいものがあるが、私には木材を使った鉄骨造に思える。地元の大工が作れる在来の軸組工法に私の興味はある。その意味でも私の一生を決定づける意義のある旅行だったと思う。

当時からクラシック音楽には愛着があった。現在趣味は多くなった。音楽鑑賞、旅行、登山、社交ダンス、茶道と多岐にわたるがどれも下手の横好きの域を出ない。音楽についてはクラシック、ジャズ。登山は低山に限りトレッキング主体。茶道は一応遠州流家元師範代だが弟子はとらない。数寄屋の究極の美は茶室にあると考えているからの茶道である。

クラシック音楽については建築家諸氏が好まれるバッハ、ベートーベンよりもワグナーが良い。特にバッハは構成がシンプルで近代建築の概念と重なり易いがワグナーの人間臭いドロドロしたところが大好きなのだ。

ここ数年来、旅行、登山を兼ねてオペラを観に海外に行っている。パッケージ旅行は嫌いなので一人で行っ



ザルツブルグオペラ観劇

ていたが最近娘が心配して同伴してくれる。

音楽会の公演日時を調べ、2～3か所観劇することでスケジュールを組む。

ベローナでは古代ローマの闘技場で「アイーダ」、ザルツブルグでは「ばらの騎士」、ブレゲンツでは湖上の劇場で「トウランドット」、ウイーンでは「椿姫」、バイロイトでは「トリスタンとイゾルデ」などどれも忘れ難い記憶である。

とりわけ楽しかったのがザルツブルグ音楽祭だ。ウイーン→ザルツブルグ→インスブルック→ブレゲンツとオーストリアを東から西の果てまで横断する事になった。ザルツブルグ祝祭劇場で「ばらの騎士」を観る。初日だったので市長、セレブが多数来場しTV、報道関係者も多数押しかけ華やかな音楽会だった。私はタキシード、娘はドレスの正装でレッドカーペットを歩いた。何とも言えない良い気分だった。（レポーターは一人も寄って来なかったがー）「ばらの騎士」はリヒャルトシュトラウスの名作オペラで舞台の華やかさ、ウイーンフィルの熱演など素晴らしい一刻

だった。ザルツブルグは小さな町で旧市街は中世のたたずまいが残っており、モーツアルト、カラヤンゆかりの地でもある。

インスブルックでチロルアルプストレッキング、登山は初めての娘のほうがタフについて行くのがやっと、改めて齢を感じた事



インスブルックチロルトレッキング

であった。

国境の町ブレゲンツで「トウランドット」を観たが、湖に夕日が沈むころオペラは始まる。湖上に100メートル四方の仮設スタンドを作り巨大なオープンセットがステージである。姫が船で現れたり、囚人が塔から湖に落とされたり屋外を利用した大仕掛けな演出が見ものだった。

帰りが難問だった。ブレゲンツは西の果て、ウイーンに戻るのに1日かかる。逆にスイス、ドイツまでは車で15分の距離。しかし辺境の町、国境越えの交通機関はない。ホテルからタクシーで国境を越えドイツの片田舎の飛行場からフランクフルト→羽田といううまいルートを見つけ、無事帰って来た。

体が動く限り音楽の旅を続けたいと思っている。ヨーロッパの文化、重層的に積み重なった歴史的な街並み、それらに浸ることが建築の美に跳ね返って来るという信念の下！



ブレゲンツ 湖上のオペラ（対岸はドイツ）



三原 秀樹 (佐賀地域会)

JIAに入会させて頂いた三原建築設計事務所の三原と申します。

私は、佐賀県内の物件を主として設計させて頂いています。

現在は、建物を設計するに当って、「周辺環境との調和」「再生可能エネルギーの活用」「ユニバーサルデザイン」「ライフサイクルコスト削減」「安全安心な建物」「建物の基本的な概念」等求められる事が殆どで、作業量も多く、煩雑になっています。そんな中、公共事業においては、担当窓口の技術者の方から、色々な角度から掘り下げた資料作成の提出を指示され、膨大な時間を費やす事が多くあります。他の会員の方々は、どの様に設計を進められているのか又、建主様や行政の担当者様とどのように合意形成をなされているか。設計を正業として、そのやりがい、面白さ、心得等、意見交換をしたいと考えたのが入会のきっかけです。

又、佐賀県においても、官民をとわず、プロポーザル方式やコンペ方式の物件が、最近増えてきています。これからの設計業務においては、入札及び見積書提出よりプロポ、コンペ方式が益々多くなる事でしょう。私共もそれらを覚悟して前に進んで行かなければなりません。

JIA会員の皆様を受注に向けて戦略、戦術をどのように立てているか非常に興味があるところがあります。そここのところも勉強したいと考えています。当然仕事に役に立つセミナーや研修会の情報にも期待しております。



「唐津保健福祉事務所」



吉永 啓 (熊本地域会)

この度、JIAに入会致しました吉永と申します。熊本県南部を中心に設計活動を行っております。私は普段、建築のプログラムやクライアントの要望に応えることはもちろん、その地域ならではの環境（景観、微気候）を考慮していかに地域に溶け込むかを考えて設計を行っています。また、単に外装や内装を着飾るのではなく、その場所・空間をどうつくるか、形や素材だったり、光や風などの外的要素をどう表現するかということを中心に、そこで生まれるであろうストーリー（〇〇するための場所ではなく、使い手には何ができて何を感じどう過ごすだろうかということ）を意識して設計しています。現在、独立して4年が過ぎました。その間に公共施設や、保育園、店舗、住宅など様々なプロジェクトに係らせてもらっていますが、地方のさらに地方にいと、他建築家の作品に直に触れる機会が少なく、また、同じモチベーションの同業者とのコミュニケーションもあまりないため、様々な意味で自分の立ち位置がわからなくなることが多々あります。そんな時、なんとなく存在を知っていたJIAに入会してみようと思ひ立ちました。本音を言うと軽い気持ちでJIAに入会してみたのですが、皆さん本業がお忙しい中、建築業界や地域のことを考え活動に励んでおられ驚かされました。JIAの活動を通して、建築家として地域の中で何ができるのか、すべきなのかを学んでいけたらと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



「もくもくほいくえん 中庭」

デザインレビュー2021 報告



池浦 順一郎 (福岡地域会)

今回で26回目の開催となった「デザインレビュー」は全国各地の大学、大学院、専門学校、高専などで建築を学ぶ学生達の意欲的作品の講評を通して、現代建築や都市環境を取り巻く諸問題を議論し、デザインの可能性とリアリティについて、広く意見を交換する場を提供する活動です。学生デザインのレベルを高めることはもとより、現代の建築批評や建築・都市デザインに対しての刺激となることを目的としています。佐賀、福岡近郊の大学の有志が学生実行委員会を立ち上げ、JIA九州支部が事務局を担い、支部会員が実行委員会に加わり、学生をサポートするかたちで企画を進めてきましたが、今回も昨年に続き、新型コロナウイルスの影響により、通常開催の中止を判断しました。その為、当初予定していた会場をアイランドシティ中央公園ぐりんぐりんから福岡大学の講義室としました。無観客とした上で、1日目はクリティーク、司会と実行委員だけの現地開催を行いました。開会式を行い、出展者はオンラインにて、クリティーク、司会とディスカッションを行うことができました。2日目は、決勝選抜、プレゼンテーションなどの様子をLIVE配信を行いました。模型やプレゼンテーションボードを展示することができなく、クリティークにとっても、出展者にとっても思いを伝えることが難しい状況でありましたが、オンライン上で活発に議論がされている状況が得られたことは一定の成果であったと思います。例年通りの現地開催とするか、あるいは昨年のようなオンライン開催とするかの2パターンの準備を行う必要があった学生実行委員会は本当に大変でありましたが、無事開催することができ、また来年につながる意義のあるものとなりました。

また、JIA九州支部では、建築教育支援活動の一環として、高校生を対象に『デザインレビュー2021』への見学参加者を「高校生レポーター」として募集しました。各地域会から普通科・工業科を問わず、これから進路を検討していく高校生に対して、『デザインレビュー2021』で全国各地の建築を学ぶ学生たちの取り組みや作品に触れ、建築の楽しさや魅力を感じてもらう事業です。今年度は、オンラインでしたが、各地域会で配信を「高校生レポーター」とともに視聴することができました。

今回のデザインレビューの開催がどのような形式をとるものか見通しはつかないが、その時々状況に柔軟に対応し、未来ある学生にとって十分なパフォーマンスが発揮できる場所となるように続けていきたいと思っています。

主催：学生デザインレビュー2021学生実行委員会

共催：日本建築家協会九州支部

特別協賛：株式会社総合資格

学生実行委員長：板谷尚樹（佐賀大学3年）

【学生実行委員】：九州圏内の学生

【実行委員】：池浦順一郎（DABURA.i）、川津悠嗣（かわつひろし建築工房）、谷口遵（建築デザイン工房）、
豊田宏二（トヨダデザイン）

【場所】：オンライン公開（Youtube LIVE配信）

【クリティーク】：高木 正三郎（建築家/建築工房）

中川 エリカ（建築家/中川エリカ建築設計事務所）

畑 友洋（建築家/畑友洋建築設計事務所/神戸芸術工科大学環境デザイン学科准教授）

古森 弘一（建築家/古森弘一建築設計事務所）

百枝 優（建築家/百枝優建築設計事務所）

【司会】：平瀬 有人（建築家/佐賀大学理工学部理工学科都市工学部門准教授/yHa architects）

■スケジュール

2月14日(日)予選審査・応募者数258名、

3月13日(土)オンライン公開審査出展62名、クリティーク、司会とのオンラインディスカッションを行う。

3月14日(日)午前に9選を選定、午後より対象者によるオンラインプレゼンテーションを行い、最優秀1作、優秀2作を決定した。また、クリティーク賞を各1名ずつ選出(合計5名)、同時にJIA全国学生卒業設計コンクールに推薦する予定者6名も選出された。参加作品：予選登録者数337名、予選提出者258名、本選通過者64名、オンライン審査出展62名

■学生設計選奨

○最優秀賞：中野紗希(立命館大学)「まちの内的秩序を描く-意図せずできた魅力的な空間から導く住まいの提案-」

○優秀賞：齋藤拓海(九州大学)「木雲」：小笠原隆(名城大学)「伊勢ノ水面ニ柱ハ眠ル」

■クリティーク賞

○高木正三郎賞：鈴木音々(名古屋工業大学)「神社再構」○中川エリカ賞：篠山航大(神戸大学)「長島協奏曲」

○畑友洋賞：山下裕子(慶應義塾大学)「編戸-網戸を編む」○古森弘一賞：近藤宏樹(名古屋工業大学)「旬鮮市場」

○百枝優賞：増田真由(慶應義塾大学)「借りぐらしの公共空間」

■JIA九州選奨

○大本裕也(熊本大学)「舞手はをどり,神はわらふ-神楽のショー化と地域の風景-」○濱崎拳介(九州大学)「シン・メタボリズム」○四宮幸之助(佐賀大学)「有終の建築」○遠藤瑞帆(九州大学)「CITY SLOW LIVING-気ままに過ごす都市風景-」○青戸優二(熊本大学)「堤防と建築 建築的スケールで解く堤防と建築が生み出す800mの地形」○山岸将大(九州大学)「Grafted Pavilion -design not to be designed-」

■記録誌出版：学生実行委員会がデータをまとめた上、株式会社総合資格にて出版、販売を担当して頂く予定。

■ホームページ：<http://fukuoka-designreview.com/index.html>



開会式の様子



オンラインディスカッションの様子



決勝プレゼンテーションの様子



閉会式の様子

デザインレビュー2021 高校生レポーター」活動報告



重田 信爾 (大分地域会)

「デザインレビュー2021 高校生レポーター」は、九州支部による高校生を対象にした建築教育支援活動の一環として、昨年から取り組んでいる事業です。「建築設計に興味がある」「建築・設計について知りたい」と思っている高校生に、『デザインレビュー』（最終日）を見学してもらい、全国各地の大学・大学院・専門学校・高等専門学校で建築を学ぶ学生たちとその作品に触れてもらうことで、建築の楽しさや魅力を感じてもらうことを目的とし、かつ、その感想をレポートしてもらいます。九州支部では、参加する高校生の会場までの交通費を補助しています。

今年度は第2回目となりますが、第1回目となる昨年度は、7名の高校生が参加予定だったものの、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止となったため、今回が実質初回でした。ただし、本来は決戦会場でその場の雰囲気を感じて頂きたいところを、コロナ禍中での開催であり、各地域で会場を設定し、デザインレビュー最終日（3月14日（日））午後の決勝プレゼンテーションをオンライン視聴にて実施することとし、各地域会で参加希望者を募りました。

コロナ禍の中、応募があるか心配していましたが、最終的に25名もの高校生から応募があり、当日は各地域会において新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮して開催いたしました。今年度のデザインレビューは、「玲明」という未来への光を感じさせる難しいテーマでしたが、学生たちからは非常に個性的で幅広いアイデアの作品が提案されていました。そのようなレベルの高い内容を視聴することで、高校生たちに何かを感じてもらえればと願いつつ開催いたしました。

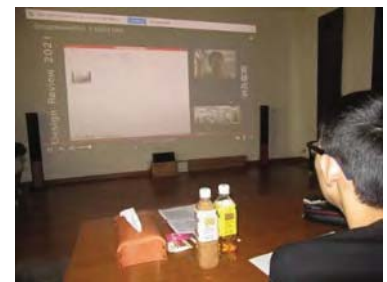
当日は、12時30分からの決勝プレゼンテーション、優秀賞議論、全体講評・結果発表と、およそ4時間にわたる視聴となりました。各地域会担当者に参加者の視聴の様子をお聞きしたところ、一所懸命食らいつきながら視聴する生徒、メモを取りながら視聴する生徒、非常に興味を持って視聴している生徒、また会員からのアドバイスや解説にもしっかりと耳を傾け、質問にも自分なりに回答する生徒、と非常に充実した会になったとのことでした。また参加者から「交通費補助まで頂いて、こんな貴重な経験が出来ることがありがたい」とのコメントも頂戴しています。

ここから各地域会の開催状況を写真と共に報告します。

＜北福岡地域会＞

- ・会場：(有)楠木建築設計事務所
- ・参加者：＜高校生＞戸畑工業高校 2年生（1名）

＜会 員＞塩釜直人、戸村一樹



北福岡地域会の様子

＜福岡地域会・佐賀地域会＞

- ・会 場：九州支部事務局
- ・参加者：＜高校生＞鳥栖工業高校3年生（2名）

＜会 員＞福田哲也、有吉兼次、村上明生



福岡・佐賀地域会の様子

<熊本地域会>

- ・会 場：(株)ライフジャム一級建築士事務所
- ・参加者：<高校生>翔陽高校2年生（2名）
（引率1名）

<会 員>原田展幸



熊本地域会の様子

<大分地域会>

- ・会 場：J:COMホルトホール大分 403会議室
- ・参加者：<高校生>大分工業高校 2年生（1名）、1年生（4名）、（引率1名）
鶴崎工業高校 2年生（5名）、1年生（3名）、（引率1名）

<会 員>重田信爾、竹宮浩一郎、高橋大介



大分地域会の様子

<宮崎地域会>

- ・会 場：宮崎工業高校
- ・参加者：<高校生>宮崎工業高校 2年生（1名）、1年生（6名）、（教諭1名）

<会 員>作田耕一郎、越山明典



宮崎地域会の様子

<長崎地域会> 今回は残念ながら参加希望者なしでした。

<鹿児島地域会> 2名参加予定でしたが、当日のアクシデント…ナビゲーションの誤誘導で会場にたどり着けず…リアルタイム視聴が叶いませんでした。

コロナ禍での初オンライン開催でしたが、非常に充実した内容となり、参加した高校生にとって何かを感じて頂けたのではないかと感じており、九州支部が高校生に対しての建築・設計についての啓発活動の一翼を担えたのではと感じています。今後提出される感想文（3月27日締切）で、改めて参加高校生の感じたことを確認し、来年度以降につなげていきたいと考えています。

最後になりましたが、デザインレビュー開催にご尽力頂いたデザインレビュー2021実行委員（学生・社会人）の皆様、ご協力を頂いた会員の皆様に、感謝すると共に御礼申し上げます。

<デザインレビュー2021高校生レポーター各地域会担当>

塩釜直人（北福岡）、福田哲也（福岡）、野中毅（佐賀）、松本隆之（長崎）、原田展幸（熊本）重田信爾（大分）、越山明典（宮崎）、肥後潮一郎（鹿児島）、川津悠嗣（九州支部）

③ 本部委員会・特別委員会活動報告	
1	<p>総務委員会 下山道男</p> <p>12月7日 第6回総務委員会 ①入会審査で九州支部からのジュニア会員の入会は否決 ②会員移動届の取り扱いについて ③法人協力会員資格要件の準用基準について（建設業の取り扱い） ④委員会規程の準用基準の検討 ⑤資格制度マニュアル改正案 ⑥JIAでの印鑑制度の見直しについて ⑦2020年度フェロー会員推薦について（2月末申請期限）</p> <p>2021年1月22日 第7回総務委員会 ①入会審査：関東甲信越支部の入会者について（設計事務所登録はないが設計監理を行っているので承認）②法人協力会員資格要件の準用基準について、理事会資料の確認 ③署名捺印について：認印は不要とし、本人確認と署名とする方向で今後検討 ④ジュニア会員の取り扱い、会員異動届の取り扱い、委員会規程（環境会議議長のヒアリング実施：WGについて） ⑤小規模会議WGについて：建築の大きさから、事務所の大きさの話に変わり、内容はJIA全体の課題になってきている</p>
2	<p>広報委員会 委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次 別添資料1</p> <p>・3月末発行ブルテンVOL4の準備中。2月に執筆依頼を行い3月12日より編集作業を行います。（別紙参照） ・ホームページやSNS更新を行いました。 ・11月1日と12月5日に本部広報委員会にWEB参加</p>
3	<p>教育委員会 田中康裕</p> <p>リフレッシュセミナーについては、昨年同様、今年も、中止予定。（委員長からのメールによる）</p>
4	<p>表彰委員会 鯉坂徹</p> <p>報告事項なし</p>
5	<p>建築家資格制度実務委員会 委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久</p> <p>12/7(月)、1/13(水) 職能資格制度・建築家資格制度実務委員会合同委員会開催。新規登録・更新・再更新締切1/31日。2/19九州支部実務委員会開催予定</p>
6	<p>財務委員会 柴田真秀</p> <p>報告事項なし</p>
7	<p>業務委員会 和田正樹</p> <p>報告事項なし</p>
8	<p>全国学生卒業設計コンクール実行委員会 田中康裕</p> <p>1月13日 WEBにて委員会開催。開催方法については、対面ではなく、リモートにて行う。審査員が集まる 場所については、継続協議。</p>

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
2020/12/16・2021/01/20 ZOOM会議 <ul style="list-style-type: none"> ・災害ネットワーク名簿及び同意書を議長に提出（2020/01/13） ※各地域会担当の皆様、ご協力ありがとうございました。 ・SDGsプレフォーラムにおける災害対策会議プレゼン内容検討 ・災害対策会議HPの内容検討（担当：北海道支部 齊藤氏 補佐：九州支部 原田） ・九州4団体の災害ネットワークWG発足の報告 			
2	JIA保存再生会議	田島正陽	
SDGsフォーラムの件、全国HM協議会の件			
3	文化財修復塾	鯨坂徹	
12月17日 第6回 ①関東：新宿御苑のオンライン現地講座を実施 近畿：清水寺の現地講座実施 ②文化財ドクター事業：文化財防災センターが中心となり構築 ③京都：近現代展、奈良：安田家実測調査と保存事業 2021年1月19日 第7回 ①今年度の申込状況の確認 ②文化財ドクター：東南海地震を想定した体制作り ③WEB座学講座の補填について ④ヘリテージアーキテクツの呼称について ⑤京都近現代建築展、安田家実測調査、文化庁への女性申請について			
4	文化財ドクター	柴田真秀	
報告事項なし			
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
報告事項なし			
5-2	・JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
○下記1件の建築相談に対応しました。 12月10日福岡 一般 5年前に建てた3階建て建物1階事務所の浸水対策について ○福岡県弁護士会 紛争処理委員選定について			
6	JIA環境会議	福田展淳	
報告事項なし			
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
12月16日 第1回 街並みレビュー実行委員会をWEB開催。1月15日 第2回 街並みレビュー実行委員会をWEB開催。2月9日 第3回 街並みレビュー実行委員会をWEB開催予定。春からのスタートに向け、皆で協議準備中。			
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
25年賞決定 九州支部からは鹿児島県の輝北天究館（輝北天究館及び輝北うわば公園内の木造建築群）が選ばれた。全国で4作品選定			
9	国際委員会	佐々木寿久	
<ul style="list-style-type: none"> ・12/10 国際委員会(WEB)にて実施 ・12/18 国際Webinar「ポルトガルにおける建築設計」を開催 ・1/20 国際委員会(WEB)にて実施 ・1/22 国際Webinar「つなげる-connecting」を開催 ・2/19 国際Webinar「ベトナム発でとりくむ建築設計」を開催予定 19:00～(Zoom) 			
10	業務委員会パンデミックWG	柴田真秀	
報告事項なし			
11	デザインレビュー	佐々木寿久	
<ul style="list-style-type: none"> ・12/ 3 学生実行委員会と社会人実行委員会でオンライン会議実施 ・12/23 学生実行委員会と社会人実行委員会でオンライン会議実施 ・1/13 学生実行委員会と社会人実行委員会でオンライン会議実施 			
12	小規模建築WG	佐々木寿久	
報告事項なし			

福岡地域会役員会（第6回）

- 日時：2020年11月28日土曜日16：30-18：00
- 場所：八仙閣本店
- 参加人数：13名
- 第5回役員会議事録確認
- 審議事項
- 1.入退会について
- 協議事項
- 1. 協定会例会についてについて
- 2. 建築展についてについて
- 3. その他 事務局保管の過去帳簿について
- 報告事項
- 1. 会長報告（福岡地域会長）
 - ・ BIM推進協議会の設立総会報告
 - ・ JIA九州支部共催のSDGsセミナーの感想
 - ・ 福岡市都市景観賞事業業務委託プロポーザルコンペ中間報告
- 2. 九州支部長報告（佐々木副支部長）
 - ・ 九州設計4団体による災害ネットワークの福岡県のワーキンググループメンバーが決定の報告
 - ・ 推薦者捺印等の省略化を求める意見書の件
 - ・ 建築家賠償責任保険講習会を各地で開催の件
 - ・ WEBシステムの事務局への設置完了報告
- 3. 事業室報告4. 企画運営室報告は添付資料参照



第6回地域会役員会風景

デザインレビュー

2020年12月03日、12月23日、01月13日：学生実行委員会と社会人実行委員会にてオンライン会議（担当：池浦順一郎）

福岡建築倶楽部

今年度の新年会は中止となったが次年度は今年度の幹事でのまま行うことになった。
 建築倶楽部役員会
 12月17日14：00～ 博多駅バスセンター会議室
 建築倶楽部新年会中止にあたり、新年の挨拶を8団体連名で挨拶文をメールで各団体に配信し、各団体から会員へ配信することとした。また、持ち回りである新年会・ゴルフコンペの世話役会等は、来年度も今年度と同じ会が引き続き受け持つこととした。
 （担当：田島正陽 福田哲也）

建築相談室

建築相談室では事務局と市役所にて月3回建築相談を受け付けています。12月は下記の1件の相談対応を行いました。
 ○12月10日福岡 一般 5年前に建てたタイトル3階建て建物1階事務所の浸水対策について（担当：永田・田中浩）

会員交流

・ 令和2年11月28日（土）
 福岡地域会忘年会は、コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して中止となりましたが同日、17：30～(30分程度)「JIA福岡地域会役員／協定会会長、オンラインによる年末の挨拶」をオンライン(ZOOM)にて行いました。（担当：佐々木寿久）



オンライン年末の挨拶風景

福岡市都市景観賞

「『福岡市都市景観賞』を中心とした景観への意識高揚事業の業務委託」としての福岡市プロポーザルに、2者JVにて参加表明を行っておりました。12月初旬にプレゼンテーションを行いました。が落選となりました。（担当：佐々木寿久）

イエノコト

11月の役員会で決済を受けました建築展について議論を行っています。

建築展2020 「まちと建築」展

目的：

建築家協会が掲げる、建築家の職能について、一般の方々に周知する。

建築展場所：

はかたナカイチ（新幹線博多南駅/駅ビル） 2階オープンスペース 福岡県那珂川市 中原2丁目120

開催期間：

2021年4月3日（土）～2021年4月12日（月）

オープニング：

2021年4月3日13時～ トークセッションを行う予定。

広報：

1か月前より、会場周辺にて告知ポスター、その他、FB、インスタグラム、FMなどで行う予定

その他：

4月3日は福岡地域会例会事業と連動、10日は地域会役員会懇親会と連動の予定

1月25日に準備委員会会議を開催



「非住宅建築物の木造木質化推進団体設立に向けた意見交換会」

主催：佐賀県農林水産部林業課

日時：12月22日 火曜日

場所：佐賀県庁

参加人数：19名

佐賀県内における新たな木材利用分野として非住宅分野の建築物に注目が集まる中、需要拡大を目指した推進体制を構築するため、発注者、建築士、木材供給者等が参加し、今後の非住宅建築物の木造木質化推進団体設立に向けた連携等を考慮した意見交換会が開催された。

また、三井所日本建築士会名誉会長による「さがが取り組む木の建築の未来」と題した講演も行われた。

「令和2年度第2回 佐賀県中大規模木造建築普及推進連絡会の開催」

主催：佐賀県農林水産部林業課

日時：1月20日 水曜日

場所：佐賀県庁

参加人数：16名

佐賀県林業課が主催する第2回 佐賀県中大規模木造建築普及推進連絡会が行われました。この協議会は、行政及び建築関連団体合計9団体のメンバーが参加。佐賀県中大規模木造建築セミナーの実施において、参加呼びかけや、セミナー修了者の人材活用の意見交換、情報を共有する連絡会となっています。セミナー参加者は建築士、県・市町担当者、木材供給者となっており、昨年9月～12月にかけてセミナーが実施されました。

ワークショップ 20201222 配布資料 00

令和2年度 地域における民間部門主導の木造公共建築物等整備推進事業 非住宅建築物の木造木質化推進団体設立に向けた意見交換会 ワークショップその1 【次第】

主催 佐賀県林業課
運営協力 (一社)木も活かす建築推進協議会
日時 令和2年12月22日(火曜日) 13:30受付 14:00開始～16:00(予定)
場所 大会議室(佐賀県庁新館11階)

■配布資料	
配布資料 00	ワークショップ次第・参加者名簿
配布資料 01	県内木造木質化推進団体設立に向けたワークショップ実施計画書
配布資料 02	第1回 県内市町支援 報告書 武雄市内産材を活用した公共施設整備の課題共有
配布資料 03	第2回 県内市町支援 報告書 *
配布資料 04	三井所講師講演資料
配布資料 05	県内非住宅建築物の木造木質化推進団体のイメージ(案)
配布資料 06	次回ワークショップ 20201220 次第(案)
配布資料 07	他県の木の建築推進団体事例「ひろしま木造建築協議会」

■検討テーマ 県内における新たな木材利用分野として非住宅分野の建築物に注目が集まる中、需要拡大を目指した推進体制を構築するために、以下の検討を行う
① 建築士や木材供給者の発掘と組織(中大規模木造建築セミナー修了者他)
② 県内関係団体の連携体制
③ 推進のための取組案

■検討結果と成果目標 ワークショップでの情報収集により、以下を成果目標とする
第2回 1) 推進団体設立に向けた関係資料収集
類似事例の概要説明資料・設立趣意書・規約等
2) 県内木造木質化施設建設に対する推進団体の支援スキーム
2-1. 具体的支援のケーススタディ報告書 (R02 武雄市支援事例の報告書)
2-2. 相談対応窓口の設置要領と相談申し込み様式(案)

連絡会 20210120 配布資料 00

佐賀県中大規模木造建築セミナー 第2回 佐賀県中大規模木造建築普及推進連絡会

日時：令和3年1月20日(水曜日) 13:30～14:15
場所：佐賀県庁 新館10階 南西角会議室

■配布資料	
配布資料 00	次第
配布資料 01	第一回連絡会要旨
配布資料 02	開催実績書
配布資料 03	セミナー受講者・修了者一覧
配布資料 04	各回開催報告書
配布資料 05	受講者アンケート集計

■プログラム 全体進行：林業課 矢野係長
1. 開催挨拶 林業課 小山田課長
2. 令和2年度セミナー事業の報告 林業課 馬場・サウンドウッズ 安田
3. セミナー修了者の紹介・修了者の公表について
4. 受講者アンケート集計
5. 今後の取組みについて(セミナー、ワークショップ)
6. 意見交換

■出席者			
一般社団法人佐賀県建築士会	会長	大塚 敏治	
一般社団法人佐賀県建築士事務所協会	会長	内田 要	代理 副会長 坂田富士光
公益財団法人日本建築家協会 佐賀地域会	会長	野中 毅	
公益財団法人佐賀県建設技術支援機構	理事長	沼村 平	代理 建築監理監 武藤秀彰
一般社団法人佐賀県建築協会	会長	松尾 哲吾	欠席
一般社団法人佐賀県木材協会	会長	山口 誠二	
佐賀県森林組合連合会	代表理事組合長	福島 光洋	
佐賀県県土整備部建築住宅建設整備課	室長	諸石 知啓	
佐賀県農林水産部林業課	課長	小山田 順二	
事務局			
佐賀県農林水産部林業課	副課長	北川 恭浩	
	林産担当係長	矢野 博典	
	林産担当主査	馬場 幸子	
佐賀県建築士会		久保 稔	
		川崎 康広	
NPO法人サウンドウッズ	代表理事	安田 智也	リモート参加
	研究員	松林 輝征	

■ 2020年度JIA長崎地域会総会

- 日時 2020年4月3日(金) 17:00～
- 出席 会員数21名 出席者13名 委任状4名 計17名
書面評決にて総会を開催

□新役員構成

- 相談役 佐々木 信明 建築家資格制度実務委員会担当
 地域会長 田中 健一郎 総務委員会担当・JIA災害対策会議担当
 副地域会長 鼻崎 象三 広報委員会担当・JIA25年賞委員会担当
 副地域会長 松本 隆之 JIA保存再生会議担当・デザインレビュー
 高校生レポーター派遣事業担当

- 幹事 中野 善弘 JIA環境会議
 木場 耕志 JIA建築相談会議担当
 三好 定和 JIAまちづくり会議担当
 会計幹事 中村 信夫 会計担当
 監査 奥村 信幸
 山田 宏彰

今年度の総会はコロナウイルス感染拡大防止の理由から書面評決方式により開催し、役員改選を支部と足並みを揃える為に行いました、会員や地域社会へのアプローチ事業を継続して進めて参ります。

■ 2020年 第1回例会・建築技術セミナー

- 日時 2020年5月11日(月)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、本部報告
- 2、支部報告
- 3、2020年度の長崎地域会事業計画について
- 4、地域会規約について

第1回目の例会・技術セミナーはコロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ インターンシップ事業

- 受入期間 4月8日～4月27日
- 株式会社三省設計事務所：田中健一郎 受入
九州大学芸術工学部環境設計学科 3年生1名 受入



■ 2020年 建築技術セミナー(2)見学会

- 日時 2020年6月28日(日)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、長崎駅舎の見学会はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
- 2、支部報告
- 3、地域会規約について

第2回目の例会・技術セミナーはコロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ 2020年 街並み研修in対馬

- 日時 2020年8月26日(水)
- 出席者 メール配布(全会員・協力会員)

- 1、街並み研修in対馬はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
- 2、支部報告
- 3、地域会規約について
- 4、JIAまち並みレビューの募集について
- 5、インターンシップ事業について

7名の会員が実施及び実施予定
 コロナウイルス感染拡大防止のためメールにて報告を行いました。

■ 2020年 役員会・勉強会

- 日時 2020年10月19日(月)
 - 出席者 メール配布(全会員・協力会員)
- 1、役員会・勉強会はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
 - 2、支部報告
 - 3、地域会規約について
 - 4、デザインレビュー2021高校生レポーターについて
 - 5、JIA建築家賠償責任保険の勉強会について
 - 6、会員について(森田健太郎会員が福岡へ異動)

※ 11月12日(木) 3役会
 コロナ過における長崎地域会の活動方針について

■ 2020年 役員会・忘年会

- 日時 2020年12月8日(火)
 - 出席者 メール配布(全会員・協力会員)
- 1、役員会・忘年会はコロナウイルス感染拡大防止のため中止
 - 2、支部報告
 - 3、地域会規約について
 - 4、2021年度事業計画案及び予算案の提出について
 - 5、九州設計4団体懇談会にて災害対応WGについて
 - 6、月13日(土)にデザインレビューの見学、支部役員会、建築展(福岡会)を開催予定。
- ※ WEB公開セミナー〈長崎建築家セミナー2020〉
 長崎総合科学大学建築学コース 教授 山田由香里 講演会開催

■ 2020年度 第9回例会

日時 2021年1月19日(火) 19:15~20:15
 場所 ホルトホール408会議室
 出席者 19名
 JIA会員 出席 10名、委任状 7名、欠席 2名 (17/19)
 協力会員 18名、県外会員 0名、一般 1名
 議事録作成者 坂本会員
 議事録署名人 松田会員

◆ 内容

- 1. 確認事項 高橋幹事
 出席者人数の確認を行った。
 会員数19名の内、出席者総数17名(委任状による出席者数7名含む)、欠席者2名により、例会が成立する。
- 2. 会長挨拶
 ・重田会長から、新年の挨拶をいただきました。
- 3. 報告事項 重田会長
 - 新入会員紹介 重田会長
 アダル様: 紹介・挨拶
 - 報告事項 重田会長
 支部役員会について
 木の匠育成事業の終了報告
 インテリア設計士コンペ協力
 - 協議事項 高橋幹事
 2021年度事業計画(案)・予算(案)
 インテリア設計士コンペ協力への教育支援活動としての予算
 Web例会についての提案



4. その他

重田会長からイベントのお知らせ
 大分県木造住宅等推進協議会様より『木つかいフォーラム』の案内

5. 例会企画

- 作品紹介 19:30~20:00
 新入会員の設計工房一嘉 一宮 嘉宏 会員から
 作品の紹介をしていただきました



- 自社PR 20:00~20:15
 アダル様から商品の紹介と説明をしていただきました。



4. 閉会

竹宮副会長

竹宮副会長より、新型コロナウイルスの感染状況によっては2月の例会はWebでの例会開催をする旨のお伝えいただき閉会の辞があり散会しました。

熊本地域会忘年会

2021/12/6 参加者 12名

感染症対策のため 屋外テラスにて開催

今年新入会員の吉永さんの歓迎会と学生会員の北岡さんの歓迎会を兼ねて開催しております。

吉永さんから始まって各会員の近況報告



寒い中皆さま参加いただきました。

リモート作品展の進捗

各会員の活動報告を収集中



学生会員の北岡さんと高井さん



建築セミナー実行委員会 第4回

日時：12月2日 水曜日 19：00～20：30

場所：市民活動センター

参加人数：7名（JIA2名、建築士会1名、事務所協会2名、JSCA2名）

議案

・今年度の建築セミナーに関して

忘年会

日時：12月16日 水曜日 19：00～21：00

場所：しん介

参加人数：6名（JIA4名、協会1名、顧問弁護士1名）

フェイスガードを使用し忘年会開催

編集後記

今年は例年より早い桜の開花。心地よい春の気候が私たちを包みこんでくれます。

年度末にもかかわらず、執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

古森さんの「プロポーザル」では門外不出の古森事務所プロポ4か条を紹介いただきました。勝ち取るまでには執筆できない悔しい思いやご苦勞などたくさんあったことと思います。それでも愚直にチャレンジしていく姿勢に感銘いたしました。4か条だけでなく、まわりをまとめあげる人間力や事務所の力強い総合力も勝因のひとつではないでしょうか。

確認申請業務は新人にとっては実体験で法規を学べる貴重な機会ですが、経験を重ねると理解に苦しむ主事の見解や不毛な作業に疑問を感じる時も多いことと思います（あくまで私見です）。和田さんの確認申請手続きについての提案は働き方が改革され、本来建築家がおこなうべき仕事に集中できる環境が整います。デジタル技術を十分に活用し、時代にあった制度改革を業界一致団結して提案していくことに共感いたします。

田中さんの「坂のまち長崎」では長崎地域会の長崎市都市景観賞選定委員の活動を紹介いただきました。いままで知らなかった「坂みち」の深い歴史とマニアックな見どころポイントも教えていただきました。久しぶりに青春18きっぷで長崎まで赴き、坂みち景観13選をめぐり、中華街で皿うどんを食べたくなりました。

河野さんのあのころでは15年前の支部大会、建築塾の逸話を垣間見き、当時の先輩方のJIAや若手に対する思い、期待感を感じることができました。全国から講師を招き、囲炉裏での懇親会。先を見通しづらい状況だからでしょうか、人と人とが集まって交流できることが大変羨ましい限りです。

永田さんの「ヨーロッパ音楽行脚」では建築、音楽など旅を通じた体験が人をつくり、そして建築へ具現化されていくことの大切さを教えていただきました。たくさんの旅や多方面の体験がよい建築を作り出していくと思います。

「わさもん」では新入会員の佐賀地域会 三原さん、熊本地域会 吉武さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。対面でお会いする機会が少なくなっていますが、これからよろしくおねがいいたします。

池浦さんに26回目を迎える「デザインレビュー2021」、重田さんに実質初回「デザインレビュー高校生レポート」の活動を報告していただきました。建築を志す大学生と高校生。どちらも建築に対する思いは熱く、未来を見据える視線は真剣です。DRをサポートすることは次の世代にJIAをつないでいく大切な活動と思います。

来年度は新企画コーナを設け、会員どうしのつながりを感じることができるよう今まで以上に充実した誌面づくりに努めていきますので何卒よろしくお願いたします。

広報副委員長 有吉兼次

